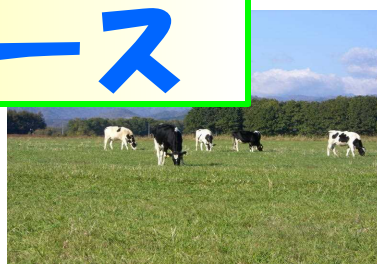
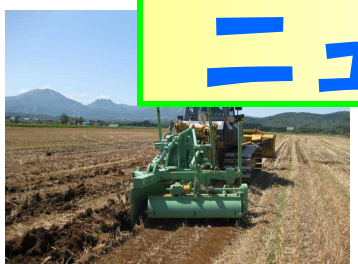




農業公社 ニュース



(第14号)

令和4年も師走に入りました。

一昨年来の新型コロナウイルス感染症や今年に入ってからウクライナ情勢、さらには急激な円安が加わり、特に生乳などの需給緩和による減産・生産調整、肥料・飼料等資材価格の高騰、さらには初妊牛などの個体販売価格の下落など、農業とりわけ酪農・畜産を取りまく情勢は、近年例のない大変厳しい状況が続いています。

この難局を関係者が一丸となって、一日も早く乗り越えていきたいとの思いを強くする日々です。

「農業公社ニュース」の第14号をお届けいたします。

■ 来春の採用内定者として8名を決定

令和5年4月採用の内定者として、全体で8名（＝総合事務職：4名、総合技術職4名）が決まりました。

さる11月には内定者懇談会を開催し、冒頭、企画管理本部長から「コロナ禍による厳しい環境での就職活動を通じ内定を勝ち得たことを「誇りと自信」にして、来年4月から若いエネルギーを当公社に注いでほしい！」と力強く歓迎の挨拶を行いました。

懇談会では、採用面接時の緊張感とは一転、和やかな雰囲気のもと内定者の自己紹介を行い、来春からの入社に向けて、当公社の事業内容及び組織風土への理解や内定者間の同期意識の醸成などを図りました。

【総務部】

■ 当公社帯広支所の事務所が移転します

昨年8月に着工していた新十勝農協連ビルですが、本年12月に竣工の運びとなり、同2日に現地で竣工式と内覧会が行われた後、各JAグループが旧農協連ビルから新農協連ビルに機能を移管して本格稼働となります。

新農協連ビルの場所は、旧農協連ビルから西へ1.5kmほど離れた帯広競馬場近くで、7,165坪の土地に建設の3階建て（延べ床面積約2,807坪）のビルとなります。当社は、その1階（86坪）に入ることとなり、4日の引越作業を経て、5日から業務を開始しますので、引き続き、よろしくお願い申し上げます。

▼ （公財）北海道農業公社 帯広支所の事務所移転

○ 住所等

・ 旧



〒080-0013 帯広市西3条南7丁目14番地 農協連ビル
TEL 0155-24-0254 FAX 0155-24-0261

・ 新

〒080-0022 帯広市西12条南6丁目3番地1 農協連ビル
TEL 0155-65-0607 FAX 0155-33-1503

○ 業務開始日

令和4年12月5日（月）

【総務部】

■ 女性担い手のスキルアップと交流をめざして

～ 令和4年度 全道女性農業担い手研修会、12/8～9に開催 ～

全道の女性農業後継者や就農研修生等を主な対象に、「学ぶ・情報を得る・仲間づくり」を目的とした研修会を開催します。日頃各地で営農に携わりながらも「仲間とつながりたい」「知識がほしい」「情報がほしい」と感じている女性担い手の要望に、解決のきっかけを提供できればと考えています。

今年度は、2年ぶりとなる札幌市内会場（＝ ホテルポールスター札幌）をメインに、ZOOMによるオンライン配信を行う「ハイブリット開催」といたします。

内容は次のとおりであり、いずれも講演と質疑時間を設けています。

- 12月8日（木）13:30～15:30
ご実家の酪農を継ぐことを決意され、現在飼養頭数1,000頭を数える大樹町の(有)カネソファーム代表取締役 金曾千春 氏による「次世代につなぐ農業経営を目指して」



- 12月9日（金）9:30～11:30
農業者の幅広い経営継承問題に精通された、旭川市の中央総合会計 代表税理士 井内敏樹 氏による「実践事例に学ぶ経営継承の留意点」



（※ 参加申込はすでに締め切っていますが、ご希望があればお問い合わせください。なお、後日報告書を作成することとしています。）

問合せ先：就農相談課 滝・増子・山羽 TEL 011-271-2255

【担い手支援部】

■ 支援対象者の公募を終了、引き続きお気軽にご相談を！

～ 6次産業化サポートセンター 今年度8件を選定 ～

6次産業化をめざす農業関係者からの相談を受け、様々な分野の専門家による支援をコーディネートする「北海道6次産業化サポートセンター」を今年度も6月から開設しています。

道内から、11月までに延べ約90件の相談（電話、面談、メール等）が寄せられましたが、昨年同期（R3年11月まで累計:169件）と比較すると、半数程度となっています。これは、資材価格の高騰や農畜産物需給の混乱などによる農業経営を取り巻く環境の厳しさから、多角化や新分野への進出などの意欲が、全体的に落ち込んでいるためではないかと推測されます。

こうした中、センターの企画推進員が中心となって専門家の地域プランナーを派遣し、相談者の経営改善戦略の策定・実行を支援する支援対象者に、今年度は8件が選定されました。内容は、トマトやブロッコリーなどの生産物を利用した商品開発、観光と連携した体験農場の整備などとなっています。

今年度の支援対象者の公募は既に終了しましたが、センターでの相談受付は引き続き企画推進員が対応しております。情報収集等でも結構ですので、お気軽にご相談ください。

連絡先：農業経営相談室 北海道6次産業化サポートセンター
TEL 011-522-5671
<https://www.adhokkaido.or.jp/keieisodan/Gjisangyo.html>



【農業経営相談室】

■ 「農業参入フェア 2022」が開催されました！

さる11月15日に、東京都千代田区の東京国際フォーラムで、「農業参入を希望する法人」と「法人を誘致したい地域等の関係者」を集めた「農業参入フェア2022」が開催され、当公社も道庁と共同で相談ブースを出展しました。

当日は、約200名の法人関係者が来場し、基調講演や企業事例の発表とともに都道府県や市町村、農地バンクと参入希望法人とのマッチング等が行われました。

北海道のブースにおいても、道内各地の地域特性についての質問や農業参入における農地の確保等についての相談に対応しました。

平成21年の農地法改正により、リース方式による法人の農業参入が全面自由化され、農地所有適格法人以外の法人が改正前の約5倍のペースで参入（令和2年12月末現在、3,867法人（錮））するなど、農地を利用して農業経営を行う法人は着実に増加しています。

法人は、地域農業の担い手となり得る存在であり、その発展に大きく貢献できることから、特に担い手が不足する地域において、法人の農業参入を推進する必要があります。

また、農地バンク事業を活用することで、まとまった農地を農地バンクから一括して借り入れできるようになっています。

農業参入フェアの詳細につきましては、以下の農林水産省ホームページをご覧ください。

<https://www.maff.go.jp/j/press/keiei/seisaku/attach/pdf/221003-2.pdf>

(農林水産省HP⇒「農業参入フェア2022パンフレット(PDFファイル)」)



◀ ▲ 東京会場の様子
日時：令和4年11月15日(火) 13:00~17:30
会場：東京国際フォーラムB7

【農用地部】

■ 農村施設整備事業としての3事業を全道32地区で実施

当会社では、昭和47年度の「農業公社牧場設置事業」を皮切りに、草地の造成・整備や暗渠排水などの基本施設整備、さらに畜舎やサイロ、家畜排せつ物処理施設などの利用施設整備を一体的に実施してきました。

各種事業の変遷を経て、令和4年度は下記の3事業を実施しています。

○ 畜産担い手育成総合整備事業（再編整備事業）
28地区 事業費 3,333 百万円
○ 農地耕作条件改善事業
3地区 事業費 71 百万円
○ 畜産環境整備事業（資源リサイクル事業）
1地区 事業費 406 百万円
計 32地区
事業費 3,810 百万円

畜産担い手育成総合整備事業（再編整備事業）及び農地耕作条件改善事業は、草地の造成・整備や暗渠排水などの基本施設整備を実施していますが、畜産担い手育成総合整備事業（再編整備事業）では利用施設の整備も実施しており、今年度も取り組んでいます。

畜産担い手育成総合整備事業（再編整備事業）においては、令和元年度よりガイドライン（＝土地改良事業における地方公共団体の負担割合の指針）が設定され、公社営事業による草地整備等の恒久的な農家負担軽減や地方財政措置の活用による計画的な事業推進が可能となったことから、近年では最多の地区数となっています。

畜産環境整備事業（資源リサイクル事業）は、老朽化した家畜排せつ物処理施設（堆肥センター）の維持・管理コストの削減や施設の長寿命化を図るため、道の「施設保全対策実施方針」に基づき、道内では唯一となる1地区を令和3年度から実施しています。

▼ 利用施設整備（4地区のうちの2地区）の概要

留萌中部地区（遠別町） 畜舎・スラリーストア

○整備の概要

畜舎	1棟	3,237.15㎡
スラリーストア	2基	4,714.77㎡
附帯機械	搾乳ロボット	1式
	その他附帯機械	1式

事業費 810,000千円

○畜舎・スラリーストア



枝幸地区（枝幸町） 育成舎

○整備の概要

育成舎	1棟	363.75㎡
-----	----	---------

事業費 75,000千円

○育成舎



【農村施設部】

■ 施工技術の地域への還元に向けて人材を積極的に育成

～ 第2回 農用地開発整備事業機械施工実施研修会を開催 ～

当会社では、創業から現在に至るまで、機械施工を必要としている地域のニーズに応えるべく、各支所に重機オペレーターが在籍しており、現在その数は約70名となっています。近年では、ICTシステムを利活用し、施工の安定と効率化に取り組んでおり、事業推進に磨きをかけています。

一方で、オペレーターの約4割が60～70歳台と高齢化が進んでおり、持続的な機械施工を行う上で、人材不足が当会社においても課題の1つとなっています。

こうした中、令和4年度もオペレーター職の高校新卒者を迎え入れ、OJTを通じて教育及び育成に努めているところです。

その人材育成の一環として、さる11月7日～10日の4日間、高卒ルーキーを含むオペレーター9名を対象に、「農用地開発整備事業機械施工実施研修会」を開催しました。機械施工の理論やICT稼働進捗管理システム等を座学（当会社常設支所機械センター（11/7））で、また、熟練オペレーターによる各工程の基本施工方法及び応用技術を実地（当会社十勝育成牧場（11/8～9））で指導しました。

GNSS自動操舵システム操作の習得によるベテランに迫る施工や、2年目オペレーターの技術が一層洗練されたことなど、めざす「エースオペレーター」に向かって着実に経験を積んでおり、さらなる施工品質の向上が期待できると考えております。

本研修では、体系的な説明や指導を心がけており、公社全体の施工技術の基盤強化や将来の機械施工を担う者の能力アップに寄与するものと存じます。

これらの技術を「地域に還元」できるよう、組織が一丸となって人材育成及び技術継承に努めてまいります。



◀ 座学研修
(帯広支所機械センター)



◀ 現地研修
(十勝育成牧場)
▼
▼



▲ 作業機脱着



▲ 積み込み



▲ 始業前点検

▼ 耕起



▲ 砕土



▲ 土壤改良材散布



▲ 鎮圧



手動操舵

自動操舵



▲ 自動操舵指導

【農場整備部】

本所・支所・牧場所在地

● 本所 ①～⑨ 支所・牧場



本所

〒060-0005 札幌市中央区北5条西6丁目1番地 23
TEL. 011-241-7551 (代表) FAX. 011-271-3776
<https://www.adhokkaido.or.jp>



監査室

TEL. 011-241-7557

農業経営相談室

TEL. 011-522-5579

農場整備部

TEL. 011-241-7554

総務部

TEL. 011-241-7551

農用地部

TEL. 011-241-5751

畜産部

TEL. 011-241-5761

担い手支援部

TEL. 011-271-2255

農村施設部

TEL. 011-241-5701

統括労働安全衛生委員会

TEL. 011-241-7557

支所・牧場

① 岩見沢支所 (旧道央支所)

〒068-0025 岩見沢市5条西5丁目2番地1 空知農業会館
TEL. 0126-23-2178 FAX. 0126-23-4260

② 苫小牧支所 (旧日胆支所)

〒053-0021 苫小牧市若草町5丁目5番3号 日胆農業会館
TEL. 0144-32-8171 FAX. 0144-32-3215

③ 帯広支所 (旧十勝支所)

〒080-0013 帯広市西3条南7丁目14番地 農協連ビル
TEL. 0155-24-0254 FAX. 0155-24-0261

④ 釧路支所

〒085-0018 釧路市黒金町12丁目10番地 釧路農業会館
TEL. 0154-22-1538 FAX. 0154-25-4798

⑤ 中標津支所 (旧根室支所)

〒086-1006 標津郡中標津町東6条南1丁目2番地 根室農業会館
TEL. 0153-72-3296 FAX. 0153-73-2080

⑥ 北見支所

〒090-8650 北見市とん田東町617番地 農業管理センター
TEL. 0157-25-2826 FAX. 0157-25-9188

⑦ 旭川支所 (旧上川支所)

〒070-0030 旭川市宮下通4丁目2番5号 JA 上川ビル
TEL. 0166-25-2613 FAX. 0166-26-3464

⑧ 稚内支所 (旧道北支所)

〒097-0001 稚内市末広4丁目2番31号 宗谷農業会館
TEL. 0162-33-3321 FAX. 0162-33-7339

⑨ 十勝育成牧場

〒089-2261 広尾郡大樹町字尾田708番地
TEL. 01558-7-5121 FAX. 01558-7-5159

※道南支所は令和4年3月31日をもって日胆支所と統合し併せて4月1日より日胆支所を含む6支所の名称を所在地名に変更しました